

第4次北海道食育推進計画（素案）についての意見募集結果

平成31年3月15日

第4次北海道食育推進計画（素案）について、道民意見提出手続により、道民の皆様から御意見を募集したところ、6人、1団体から、延べ17件の御意見が寄せられました。

御意見の要旨及び御意見に対する道の考え方については、次のとおりです。

意見の概要	意見に対する道の考え方※
○ 世代に合わせた「食育」が望ましいと思いますので、【めざす姿】「食」の力で育む心と身体と地域の元気に賛成です。	— B
○ 基本方針は、とても良いと思います。	— B
○ 関係者の役割分担で「調理方法を学び・・・」と「調理」という言葉が出てきますが、他の章に「調理」という具体的な表現は必要ないでしょうか。	推進施策の取組において、若い世代や子育て世代向け料理教室の開催など「調理」に関わる具体的な取組を記載しています。 B
○ 推進施策の主な取組に記載されている「スポーツと食の関わりにおける食育や栄養学教育の推進」について、「スポーツ」に限定しなくてよいのでは。	子どもから高齢者まで全世代や給食等、様々な場面で食育を推進してまいります。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツとの連携も打ち出したものです。 B
○ 「高齢者の健康推進の強化」について重点目標になっているが、推進施策の主な取組に記載されている「関係機関と連携した高齢者向けの普及啓発」の具体的内容を知りたい（低栄養予防等）。	推進施策の取組において、健康寿命を延ばすことの重要性などへの理解の促進や高齢者が手軽に実践できる取組の提案など、具体的な取組を記載しています。 B
○ 「高齢者の健康推進の強化」は重点目標に設定されている割に詳細がざっくりしている。	推進施策の取組において、健康寿命を延ばすことの重要性などへの理解の促進や高齢者が手軽に実践できる取組の提案など、具体的な取組を記載しています。 B
○ 家庭での食生活はとても大切だと思います。栄養バランスのとれた規則正しい食生活になるよう関心が持てるような学習会が必要と思います。	推進施策の取組において、子どもたちの生活習慣の改善に資する研修会等の開催を記載しています。 また、家庭の役割において、規則正しい食生活の実践について記載しています。 B

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>○ 学校や保育園などで子ども達に食のたいせつさを教える場を多く取り入れて欲しいです。</p>	<p>保育園等に対する指導監査において、保育所保育指針に沿った食育の推進を促すほか、学校給食や体験の機会提供など、保育園や学校での食育を進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">B</p>
<p>○ 給食の時間を組織化し、短時間内に食べ終わらせようと強いるのは、消化と吸収を妨げる結果をもたらす。アレルギー体質の子どもには弁当の持参を認めるべきである。</p>	<p>食物アレルギーを有する児童・生徒への対応は、保護者と面談し、弁当の持参（完全及び一部）の対応を行っているところです。</p> <p>なお、いただいた御意見の趣旨については、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>○ 道庁や道の関連団体、各市町村が主催するレセプション等では、毎回、ホテル側が調理した膨大な量の料理が廃棄される事を繰り返している。これは、挨拶の言葉が長く続き、乾杯が遅れる為で、参加者側も数千円もの高い参加費用を払い済みながら、杯の時まで食べることも飲むことも出来ない、お預け状態を強いられる為で、乾杯後に慌てて食べ始めても食べきれないからである。</p> <p>他県の自治体では、主催するレセプションには、原則として、サンドウィッチとケーキか和菓子、等の軽食しか出さない、参加費用も2千円以下、と決めている自治体も多い。サンドウィッチなら簡単に持ち帰る事も出来、食べ物を無駄に捨てなくても済むからである。</p>	<p>平成28年11月から「どさんこ愛食食べきり運動」に取組み、食品ロス削減の意義等について理解促進を図るとともに、関係者との連携等を記載しています。</p> <p>なお、いただいた御意見の趣旨については、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>○ イベント的な日付を目当てとした販売方法は、大量の廃棄食品を捨てる結果になるので、テレビ局や新聞社などの報道機関に煽るような宣伝をしない様、自粛を呼びかけるべき（クリスマスケーキ、ひな祭りケーキ、恵方巻、土用の鰻など）。</p>	<p>平成28年11月から「どさんこ愛食食べきり運動」に取組み、食品ロス削減の意義等について理解促進を図るとともに、関係者との連携等を記載しています。</p> <p>なお、いただいた御意見の趣旨については、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>○ 小学2年生と幼稚園年中の子供がいます。幼稚園ではさつまいもやじゃがいも掘りなど畑での体験や果物狩りをさせてくれます。小学校でも野菜収穫してそれを調理実習をして食する、その流れが分かるような授業を少しでも多くしてほしいです。</p>	<p>推進施策の取組において、地域の生産者団体・他機関等と連携し、児童生徒に対する農林漁業体験や食品の調理に関する体験の機会の提供等の推進について記載しています。</p> <p style="text-align: right;">B</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方※
○ 食品ロス もったいないを合い言葉に、食品の廃棄物を少なくするように今後も広く呼びかけていただきたいと思います。	推進施策の取組において、食品ロス削減に向けた「どさんこ愛食食べきり運動」の具体的な取組を記載しています。 B
○ 食のアレルギーの情報も取り入れてほしいです。環境要因+食物でアレルギーを発症する例を聞きました。これ以上アレルギーの人を増やさないためにも、学習や情報提供の場を増やして欲しいと思います。	食物アレルギーは疾患であり、発症機序も様々で個別性が高いなか、個々人の疾患予防やその予防方策を本計画に盛り込むことは馴染まないところですが、アレルギー成分の表示を含む食品表示等に関する法律や制度の普及啓発について、推進施策の取組において記載しています。 B
○ 学校給食には、地元野菜、お米など定期的に献立に取り入れると良いと思います。その献立の時は子ども達に旬の野菜である事、農薬が使われていない（減農薬である）、安全な食材であることなどをきちんと説明すると良いと思います。	推進施策の取組において、学校給食に地場産物を積極的に取り入れ、道産食材の特徴や利点への理解を促す取組を推進するなど、学校給食を活用した食に関する充実について記載しています。 B
○ 食育に関する学びの場に参加される方は、食への関心が高い方が多い様に感じます。多くの方に関心を持ってもらうためには、食のイベントはもちろんの事、色々なイベントでも情報を発信し、食以外のネットワークとの交流も必要かと思えます。	食に対する関心が高まるよう、スポーツと連携した取組や、各地域の方々との連携を図りながらネットワークを強化してまいります。 B
○ ひとりひとりが健康で長生きできるように、特に大人の栄養バランス、カロリーについては、定期的に情報を発信できるような市町村の取組があると、もっと気を付ける方が増えると思います。	関係者の役割分担において、食事バランスガイドの普及啓発など地域における食育アドバイザーとして活動する食生活改善推進員の育成や地域の関係者と連携、協働した取組の実施など市町村の役割を記載しています。 B

※「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

区分	意見等の反映状況
A	意見を受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問い合わせ先
農政部食の安全推進局食品政策課
(食品企画グループ)
電話 011-231-4111
内線 27-666